



村山市【山形県】 歴史文化基本構想

■ 策定年度：平成31年3月 ■ 人口：24,175人 ■ 市域面積：196.98km²
■ 担当課：村山市教育委員会生涯学習課（平成31年3月現在）



村山市は、市の中央を最上川が南北に貫き、地理的に東西に分断されている。舟運の難所である最上川の三難所（基点、三ヶ瀬、隼）は市の名所にもなっている。東の甑岳、西の葉山と二つの麓に広がる最上川東西の歴史文化を生かして地域の活性化や地域への誇りを持った人材の育成に活かしていく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

交通の要衝、舟運の歴史、山岳信仰、
多彩な考古遺跡群、居合道

課題

- ・文化財保護の担い手の高齢化や後継者不足
- ・文化財を観光振興等に活用できるよう情報発信方法の改善が必要

保存活用方針

- ・市民や民間団体との連携体制整備
- ・所有者や保存団体への支援
- ・文化財保存を担う人材の育成

保存活用のための取り組み

地域にある文化財を総合的に把握

市民や学校が中心となり、勉強会や講演会、地域巡りなどを実施することで地域にある文化財を総合的に把握する。行政は市民や学校が中心となって活動できるよう、様々な方法で仲間作りの支援、学習機会の創出などを行う。



地域の文化財の魅力を知りやすく整理

関連する文化財を点から線、線から面へ繋いで「関連文化財群」を設定する。そして、市民と行政と所有者・保存団体が連携して、個々の文化財の魅力に付加価値を付けるため関連文化財群として活用することを意識する。



担い手育成を含めた次世代へ継承する仕組み

所有者・保存団体は保存・継承・活用を推進し、行政は市民や学校などを対象に周知のためのイベント開催や市民・子どもキュレーターの認定など、それぞれが担い手育成を含めた次世代へ継承する仕組み作りを行う。

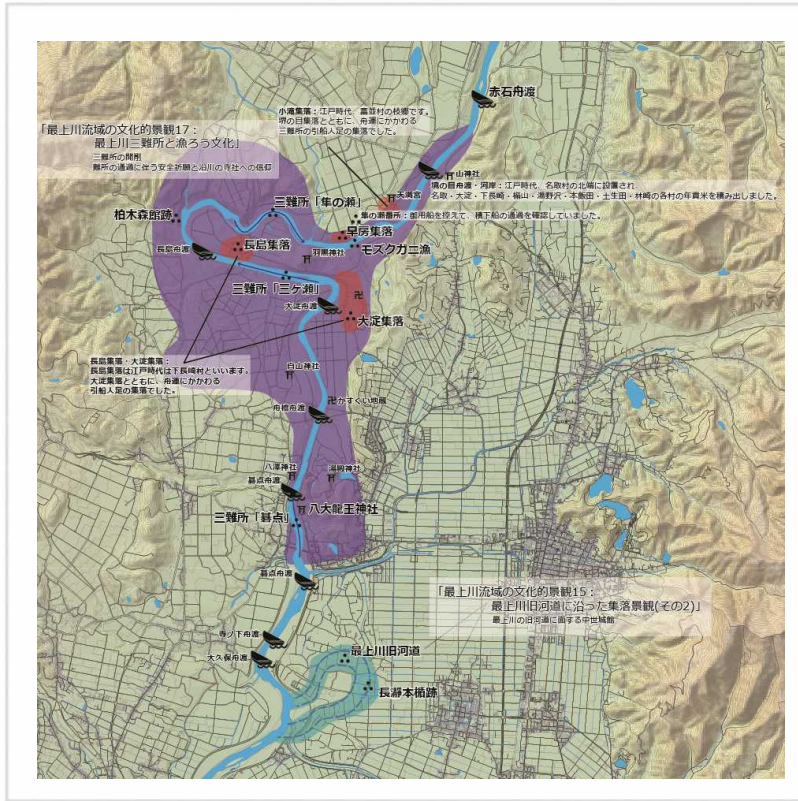


文化財保存・継承・活用の推進と支援

文化財の調査研究を継続し、アーカイブシステムの整理・蓄積や文化財の指定などを行う。企業・民間団体が歴史文化分野以外の専門知識や技術を活かして文化財の保存・継承・活用に指導・助言や技術提供ができるように行政が仲介役となって推進する。



関連文化財群



最上川は、古くから生活や経済に密接に関わっており、流域のちょうど中間部に位置している村山市においては、舟道の開削に関する記録や、元禄15年（1702）に刊行された『おくのほそ道』で俳聖・松尾芭蕉が「ごてん・はやぶさなどと云おそろしき難所あり」と最上川三難所について記していることから、歴史的にその存在価値が認められている。

ストーリー

- ① 「基点・三ヶ瀬・隼」の三難所に残る舟道の痕跡
- ② 舟運に関わる生業を主とした大淀・長島・早房など集落の歴史
- ③ 難所を見守る神社への信仰
- ④ 難所を利用した築場など漁猟
- ⑤ 最上川の旧河道に沿った土地利用の痕跡

策定後の成果（見込まれる効果）

① **文化財の持つ多様な価値の顕在化**
文化財の調査・保存・活用を通して文化財の置かれている課題等を考える機会が生まれ、将来にわたって、調査・保存・活用や課題の解決、情報発信を担う人材が育成される。地元産業高校等の技術を文化財の調査・保存・活用事業に適用し、来訪者・学習者の利便性向上や情報発信力の強化が見込まれる。



② **文化財を核とした地域の活性化**
市民や学校が中心となり、勉強会や講演会、地域巡りなどを実施することで地域にある文化財の価値の再発見をすることができる。行政は市民や学校が中心となって活動できるよう、様々な方法で仲間作りの支援をすることで、学習機会の創出などが期待できる。



③ **地域や各機関との連携協力の推進**
市民や学校、企業・民間団体が活用できるよう、行政が中心となり観光アプリの充実や文化財の情報発信を行い、また文化財の保存・継承・活用の課題等を考える機会を提供し、市民や学校、企業・民間団体の関心を高め、そこから郷土に誇りを持った人材の育成、文化財を活用したパンフレットや商品作りなどに取り組めるようになる。

